

DIALOG(R)File 351:Derwent WPI
(c) 2002 Thomson Derwent. All rts. reserv.

001161185

WPI Acc No: 1974-34994V/197419

Toner for developing electrostatic images - contg
polyethylene/poly-propylene, pigment and styrene resin opt with paraffin
wax and fatty acid metal salt for improved hot roll fixing

Patent Assignee: KONISHIROKU PHOTO IND CO LTD (KONS); KONICA CORP (KONS
)

Inventor: SATO M; TARUMI N; TOMONO M

Number of Countries: 004 Number of Patents: 014

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week	
DE 2352604	A	19740502				197419	B
JP 49065231	A	19740625				197505	
JP 49065232	A	19740625				197521	
GB 1442835	A	19760714				197629	
JP 77003304	B	19770127				197708	
JP 77003305	B	19770127				197708	
DE 2352604	B	19800911				198038	
US 4921771	A	19900501	US 88147024	A	19880119	199022	
US 4988598	A	19910129	US 90477193	A	19900206	199107	
US 4997739	A	19910305				199112	
US 5004666	A	19910402				199116	
US 5023158	A	19910611				199126	N
US 5629123	A	19970513	US 73408008	A	19731019	199725	
			US 76741408	A	19761112		
			US 7950475	A	19790620		
			US 81279673	A	19810701		
			US 83550992	A	19831114		
			US 85801376	A	19851122		
			US 8765093	A	19870618		
			US 88147024	A	19880119		
			US 90476142	A	19900226		
			US 91646709	A	19910125		
			US 92927548	A	19920806		
			US 94195905	A	19940214		
			US 94273638	A	19940712		
			US 95467055	A	19950606		
US 5629118	A	19970513	US 73408008	A	19731019	199725	
			US 76741408	A	19761112		
			US 7950475	A	19790620		
			US 81279673	A	19810701		
			US 83550992	A	19831114		
			US 85801376	A	19851122		
			US 8765093	A	19870618		
			US 88147024	A	19880119		
			US 90476142	A	19900226		
			US 91646709	A	19910125		
			US 92927548	A	19920806		
			US 94195905	A	19940214		
			US 94274109	A	19940712		
			US 95466247	A	19950606		

Priority Applications (No Type Date): JP 72105289 A 19721023; JP 72104865 A
19721021

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC
US 5629123 A 9 G03G-009/08

Filing Notes

CIP of application US 73408008
Cont of application US 76741408
Cont of application US 7950475
Cont of application US 81279673
Cont of application US 83550992
Cont of application US 85801376
Cont of application US 8765093
Cont of application US 88147024
Cont of application US 90476142
Cont of application US 91646709
Cont of application US 92927548
Cont of application US 94195905
Cont of application US 94273638
Cont of patent US 4921771
Cont of patent US 4997739

US 5629118 A 9 G03G-013/20

CIP of application US 73408008
Cont of application US 76741408
Cont of application US 7950475
Cont of application US 81279673
Cont of application US 83550992
Cont of application US 85801376
Cont of application US 8765093
Cont of application US 88147024
Cont of application US 90476142
Cont of application US 91646709
Cont of application US 92927548
Cont of application US 94195905
Div ex application US 94274109
Cont of patent US 4921771
Cont of patent US 4997739

Abstract (Basic): DE 2352604 A

The toner consists of or contains (a) a colouring agent, (b) a styrene resin and (c) polyethylene and/or polypropylene opt. (d) a paraffin wax and opt. (e) a fatty acid metal salt. Excellent hot roll fixing of the image is possible, without the occurrence of the 'offset' phenomenon if the fixing roll is used without addn. of offset-preventing liq. The toner is very useful in very high speed copiers. The amts. of additives are 0.1-5 (0.5-15) (wt.) pts. (c) + (d)/100 pts. (b), 25-400 pts. (d)/100 pts. (c) and 0.1-10 pts. (e)/100 pts. (b).

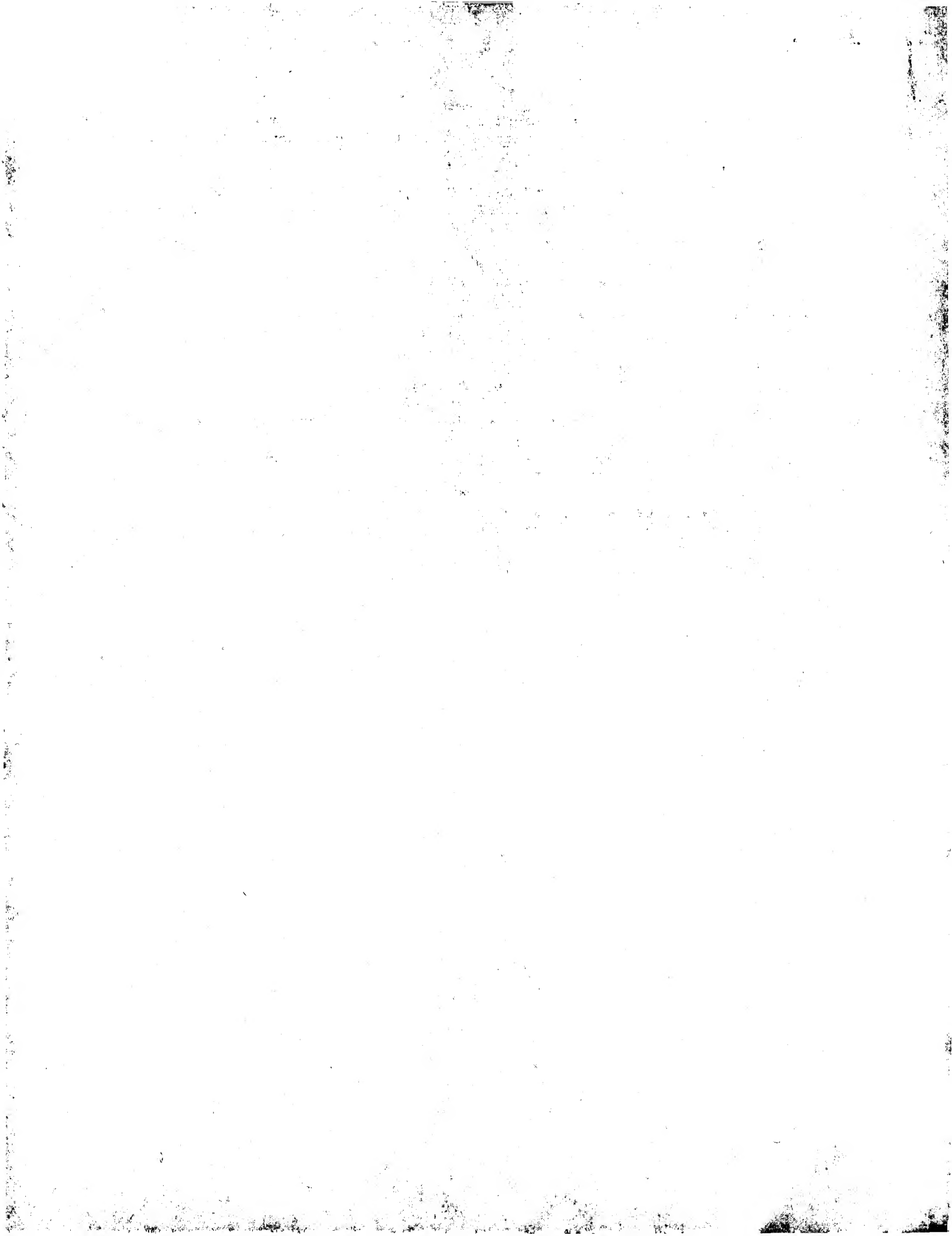
Abstract (Equivalent): US 5629123 A

A toner for developing electrostatic images including a binder resin comprising a homopolymer of styrene or a copolymer of styrene and at least one vinyl comonomer, and low number average molecular weight polypropylene, in an amount of about 1 to 10 parts by weight per 100 parts by weight of said styrene homopolymer or copolymer.

Dwg.0/0

US 5629118 A

A method of electrophotography comprising developing an electrostatic latent image with a toner composition to form a toner image, transferring the toner image to a paper, then fixing the toner image by passing the paper between rollers, at least one of which is heated to a temperature of about 155 deg. C. to about 210 deg. C. , the toner composition including a binder resin comprising a homopolymer of styrene or a copolymer of styrene with at least one vinyl comonomer,



⑤ Int. Cl.
G 03 G 9/08

⑥ 日本分類
103 K 112

⑦ 日本国特許庁

⑧ 特許出願公告

昭52-3304

特 許 公 報

⑨ 公告 昭和52年(1977)1月27日

庁内整理番号 6715-27

発明の数 1

(全 7 頁)

1

④ 静電荷像現像用トナー

- ⑪ 特 願 昭47-104865
⑫ 出 願 昭47(1972)10月21日
公 開 昭49-65231
⑬ 昭49(1974)6月25日
⑭ 発 明 者 友野信
日野市東豊田1の46の1
同 樽見紀慶
多摩市諏訪2の4の4の404
⑮ 出 願 人 小西六写真工業株式会社
東京都中央区日本橋室町3の1の
10
⑯ 代 理 人 鈴木清司

⑥ 特許請求の範囲

1 着色剤、スチレン系樹脂および低分子量ポリ
プロピレンを含有することを特徴とする静電荷像
現像用トナー。

発明の詳細な説明

本発明は電子写真、静電記録、静電印刷などに
おける静電荷像を現像するためのトナーに関する。

静電荷像を現像する方式には、大別して絶縁性
有機液体中に各種の顔料や染料を微細に分散させ
た現像剤を用いる液体现像方式とカスケード法、
毛ブラシ法、磁気ブラシ法、インプレッション法、
パウダークラウド法などの天然または合成の樹脂
にカーボンブラックなどの着色剤を分散含有せし
めたトナーと呼ばれる微粉末現像剤を用いる所謂
乾式現像方式とがあり、本発明は後者の乾式現像
方式において使用するトナーに関するものである。

トナーを用いて静電荷像を現像した後、定着が
行なわれるが、一般に定着は静電荷像を保有せし
めた光導電性感光体もしくは静電記録体上に現像
によつて得られたトナー像を直接融着させるか、
あるいは現像によつて得られたトナー像を光導電
性感光体もしくは静電記録体上から一担紙などの

2

転写シート上に転写した後、これを転写シート上
に融着させることによつて行なわれる。その際、
トナー像の融着は溶媒蒸気との接触または加熱の
いずれかによつて行なわれ、加熱方式としては電
気炉による無接触加熱方式および加熱ローラーに
よる圧着加熱方式が一般に採用されている。

加熱ローラーによる圧着加熱方式はトナーに対
して離型性を有する材料で表面を形成した加熱ロ
ーラーの表面に被定着シートのトナー像面を圧接
触させながら通過せしめることにより定着を行な
うものであり、一般に加熱ローラー定着法と呼ば
れているが、この方法は加熱ローラーの表面と被
定着シートのトナー像面とが圧接触するため、ト
ナー像を被定着シート上に融着する際の熱効率が
極めて良好であり、迅速に定着を行なうことがで
きる。特に高速度複写を目的とする転写方式の
電子写真複写機には極めて有効である。しかしな
がら、この方法においては定着ローラー表面とト
ナー像とが加熱熔融状態で圧接触するためトナー
像の一部が定着ローラー表面に付着して移転し、
次の被定着シート上にこれを再移転して所謂オフ
セット現象を生じ被定着シートによつてこれを発生せ
しめることがある。そのため、ローラー表面に対
してトナーが付着しないようにすることが加熱ロ
ーラー定着法における必須要件の一つとされてい
る。

従来、定着ローラー表面にトナーを付着させな
いために、たとえばローラー表面を弗素系樹脂な
どのトナーに対して離型性の優れた材料で形成す
るとともにその表面にさらにシリコンオイルなど
のオフセット防止用液体を供給して液体の薄膜で
ローラー表面を被覆することが行なわれている。
この方法はトナーのオフセットを防止する点では
極めて有効なものであるがオフセット防止用液体
が加熱されることにより臭気を発生し、またオフ
セット防止用液体を供給するための装置を必要と
するため、複写装置の機構が複雑になるとともに

3

安定性のよい結果を得るために高い精度が要求されるので複写装置が高価なものになるという欠点がある。しかしながらオフセット防止用液体を供給しない場合には定着ローラー表面にトナーが付着してオフセット現象が発生するのでこれらの欠点5を有するにも拘わらずオフセット防止用液体の供給を行なわざるを得ないのが現状である。

本発明の目的は、その表面にオフセット防止用液体を供給しない定着ローラーを使用した場合にも、トナーのオフセット現象を発生させずに効率よく良好な加熱ローラー定着を行なうことができる静電荷像現像用トナーを提供するにある。本発明者は着色剤、スチレン系樹脂および低分子量ポリプロピレンを含有する静電荷像現像用トナーが前記の目的を達成するものであることを見出した。15

本発明に係る静電荷像現像用トナーを使用することにより、定着ローラー表面にオフセット防止用液体を供給しない場合にもオフセット現象を発生することなく効率よく良好な加熱ローラー定着を行なうことができるので、定着装置の機構を簡素化することできると共に、たとえばこのような定着装置を組み込んだ高速複写機の精度、安定度および信頼度を向上することができ、しかも価格の面でも低減化することができる。したがって超高速複写機の設計を極めて容易ならしめるとい25う利点を有する。

本発明に係るトナーにおいて任意の適当な顔料または染料が着色剤として使用される。たとえばカーボンブラック、ニグロシン染料、アニリンブルー、カルコオイルブルー、クロームイエロー、30ウルトラマリブルー、デユボンオイルレッド、キノリンイエロー、メチレンブルークロライド、フタロシアニンブルー、マラカイトグリーンオキサレート、ランブブラック、ローズベンガルおよびそれらの混合物が使用され、これらは現像によ30り可視像を形成することができるようにトナーを着色するのに十分な量でトナー中に含有させることが必要である。

本発明に係るトナーにおいてスチレン系樹脂が樹脂成分として使用される。スチレン系樹脂はス40チレンのホモポリマーでもよいし、また他のビニル系の単量体とスチレンとのコポリマーでもよい。これらのコポリマーを形成するための単量体にはp-クロルスチレン、ビニルナフタレン、たとえ

4

ばエチレン、プロピレン、ブチレン、イソブチレンなどのエチレン不飽和モノオレフィン類、たとえば塩化ビニル、臭化ビニル、弗化ビニル、酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル、ベンゾエ酸ビニル、酪酸ビニルなどのビニルエステル類、たとえばアクリル酸メチル、アクリル酸エチル、アクリル酸n-ブチル、アクリル酸イソブチル、アクリル酸ドデシル、アクリル酸n-オクチル、アクリル酸2-クロルエチル、アクリル酸フェニル、α-クロルアクリル酸メチル、メタアクリル酸メチル、メタアクリル酸エチル、メタアクリル酸ブチルなどのα-メチレン脂肪族モノカルボン酸のエステル類、アクリロニトリル、メタアクリロニトリル、アクリルアミド、たとえばビニルメチルエーテル、ビニルエチルエーテル、ビニルイソブチルエーテルなどのビニルエーテル類、たとえばビニルメチルケトン、ビニルヘキシルケトン、メチルイソプロペニルケトンなどのビニルケトン類、たとえばN-ビニルピロール、N-ビニルカルバゾール、N-ビニルインドール、N-ビニルピロリデンなどのN-ビニル化合物などがあり、これらの1種または2種以上をスチレン単量体と共重合させることができる。適当なスチレン系樹脂は約3000以上の重量平均分子量を有しており、そのスチレン成分含有量はスチレン系樹脂の全重量を基礎にして重量で少なくとも約25%であることが好ましい。

スチレン系樹脂に他の樹脂を混合した熱可塑性樹脂系も本発明に係るトナーの樹脂成分として使用することができる。スチレン系樹脂と混合することのできる他の樹脂には、ビニルナフタリン、たとえば塩化ビニル、臭化ビニル、弗化ビニル、酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル、ベンゾエ酸ビニル、酪酸ビニルなどのビニルエステル類、たとえばアクリル酸メチル、アクリル酸エチル、アクリル酸n-ブチル、アクリル酸イソブチル、アクリル酸ドデシル、アクリル酸n-オクチル、アクリル酸2-クロルエチル、アクリル酸フェニル、α-クロルアクリル酸メチル、メタアクリル酸メチル、メタアクリル酸エチル、メタアクリル型ブチルなどのα-メチレン脂肪族モノカルボン酸のエステル類、アクリロニトリル、メタアクリロニトリル、アクリルアミド、たとえばビニルメチルエーテル、ビニルイソブチルエーテル、ビニルエ

チルエーテルなどのビニルエーテル類、たとえば
 ビニルメチルケトン、ビニルヘキシルケトン、メ
 チルイソプロベニルケトンなどのビニルケトン類、
 たとえばN-ビニルピロール、N-ビニルカルバ
 ズール、N-ビニルインドール、N-ビニルピロ
 リデンなどのN-ビニル化合物などの単量体を重
 合させたホモポリマーまたはこれらの単量体を2
 種以上組み合わせて共重合させたコポリマーある
 いは、たとえばロジン変性フェノールホルマリン樹
 脂、油変性エポキシ樹脂、ポリウレタン樹脂、セ
 ルローズ樹脂、ポリエーテル樹脂などの非ビニル
 系熱可塑性樹脂がある。これらの樹脂をスチレン
 系樹脂と混合して使用する場合には、混合して得
 られる樹脂の全重量を基礎にして重量で少なくと
 も約25%のスチレン成分が存在する量になるよ
 うに両者を混合するのが好ましい。その訳は定着
 ローラーに対するトナーの離型性がスチレン成分
 の存在量と密接な関係があり、スチレン成分を減
 少させるにしたがい、定着ローラーに対するトナ
 ーの離型性を低下せしめる傾向があるからである。

本発明に係るトナーにおいて使用される低分子
 量ポリプロピレンは、スチレン系樹脂成分に対す
 る相溶性ができるだけ大きいものであることが望
 ましいだけでなく、融着温度を所望の値とするた
 め、あまり高融点のものは好ましくないことから
 比較的分子量のものが望ましく、エーテル抽出
 可能な重量平均分子量が約1000乃至45000
 のポリプロピレン、特に重量平均分子量が約
 2000乃至6000程度のポリプロピレンが本
 発明において有効に使用し得る。

また、これらの低分子量ポリプロピレンは
 100乃至180℃の軟化点、特に130乃至
 160℃の軟化点を有するものが有効である。

トナー中に含有させる低分子量ポリプロピレン
 の量は、トナーの樹脂成分、着色剤およびトナ
 ー添加剤の種類ならびにそれらの使用量によつて異
 なるが、一般にトナーの樹脂成分100重量部当
 り1乃至25重量部、好ましくは2乃至10重量
 部である。低分子量ポリプロピレンをトナー中に
 含有させるには、混練工程に先立つ樹脂成分、着
 色剤および各種トナー添加剤の予備混合時に添加
 すればよい。

低分子量ポリプロピレンは加熱されたとき低粘
 度の液状を呈するので、これを含有するトナーが

加熱された定着ローラーに接触するとトナー中の
 低分子量ポリプロピレンが液化してトナー表面に
 遊離し、定着ローラーの表面を被覆し、低分子量
 ポリプロピレン自身の有する離型性により融解さ
 れたトナーを定着ローラーの表面に付着させずオ
 フセット現象を生ぜしめない。このような離型効
 果は表面を離型性材料で形成した定着ローラーの
 みならず、従来一般に離型性のないとされている金
 属で表面を形成した定着ローラーを使用した場合
 においても認められる。したがって本発明に係る
 トナーを使用すれば、定着ローラーとして特に離
 型性材料で表面を形成したものをを用いなくてもト
 ナーのオフセット現象を防止することができ、装
 置設計上極めて有利である。低分子量ポリプロピ
 レンのトナーに対する添加効果は前記の如き離型
 性の向上の他、トナー中に含有するニグロシンな
 どの着色剤やその他の添加剤の分散性を向上して
 トナー粒子の荷電制御性を均一にし、現像剤とし
 ての性能を向上する作用効果を有している。

本発明に係るトナーには、低分子量ポリプロピ
 レン以外の離型作用を有する種々の化合物を、さ
 らに低分子量ポリプロピレンに組み合わせて含有
 せしめることができる。

これらの化合物としては、たとえばステアリン
 酸のカドミウム塩、バリウム塩、鉛塩、鉄塩、ニ
 ッケル塩、コバルト塩、銅塩、ストロンチウム塩、
 カルシウム塩またはマグネシウム塩、オレイン酸
 の亜鉛塩、マンガン塩、鉄塩、コバルト塩、銅塩、
 鉛塩またはマグネシウム塩、パルミチン酸の亜鉛
 塩、コバルト塩、銅塩、マグネシウム塩、アルミ
 ニウム塩またはカルシウム塩、リノール酸の亜鉛
 塩、コバルト塩またはカルシウム塩、リシノール
 酸の亜鉛塩またはカドミウム塩、カプリル酸の鉛
 塩、カプロン酸の鉛塩などの脂肪金属塩類、比較
 的低分子量のポリエチレン、炭素数28以上を有
 する高級脂肪酸類、天然あるいは合成のパラフィ
 ン類、エチレンビスステアロイルアמידなどの
 ビス脂肪酸アמיד類などをあげることができこれ
 らの化合物を1種あるいは2種以上組み合わせ
 て含有させることができる。これらの化合物のト
 ナーに対する添加量は、トナーの樹脂成分100
 重量部に対し、一般に0.1乃至10重量部程度、
 好ましくは0.5乃至5重量部であり、これらの化
 合物をトナーに添加することにより、低分子量ポ

リブロビレンの樹脂成分に対する相溶性はさらに向上し、かつ着色剤、荷電制御剤などその他のトナー添加剤の分散性も同様にさらに向上する。また樹脂成分が比較的にもろい性質を有するものである場合には、トナーを製造する際の粉碎工程において過粉碎されるのを防ぐことができ、所望の粒径のものを高収率で得ることができる。さらにトナーの安定性を増大し、長期間の使用に際しても摩擦帯電性を変化せしめず、トナーの寿命を著しく増大することができる。

なお、本発明に係るトナーには必要に応じてその他の種々のトナー添加剤を添加することができる。

本発明に係るトナーを使用して被定着シート上に形成したトナー像は、その表面にオフセット防止用液体を供給しない定着ローラーを使用した場合にもトナーのオフセット現象を発生することなく効率よく良好な加熱ローラー定着を行なうことができる。定着ローラーとしては、その表面をたとえばテフロン（デュボン社製）、フルオン（ICI社製）、ケルーF（3M社製）などの弗素系樹脂あるいはKE-1300RTV（信越化学社製）などの比較的硬質のシリコンゴムで形成した平滑面を有するものや場合によっては金属表面を有するものが有効に使用される。

次に実施例によつて本発明を例証するが、本発明の実施の態様がこれによつて限定されるものではない。なお実施例において部数は特にことわらない限り重量によつて表わす。

実施例 1

ビコラスチックD-150（エツソ石油化学社製、スチレン系樹脂）100部と、ピアレス155（コロンビアカーボン社製）5部と、ニグロシンペースEX（オリエント化学社製）5部と、ビスコール550-P（三洋化成社製、低分子量ポリブロビレン）10部とを混合して約24時間ボールミルにかけた後、熱ロールを用いて混練し、冷却後粉碎して約13乃至15ミクロンの平均粒度を有するトナーを作成し試料とした。別に、ポリブロビレンを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これらのトナー4部をそれぞれ約50乃至80ミクロンの平均粒度を有する鉄粉キヤリヤー96部と混合して2種の現像剤を作り、これらの現像

剤を用いて通常の電子写真法によつて形成した静電荷像を現像した後、トナー像を転写紙上に転写し、表面をFEP（デュボン社製、テトラフルオロエチレンとヘキサフルオロブロビレンとの共重合体）で形成した定着ローラーを用いて200乃至210℃で圧接触させてトナー像を融着せしめ定着した。次いで融着したトナー像が定着ローラーの表面に転移してオフセット現象が生ずるかどうかを調べるため、それぞれの定着操作を行なつた後、トナー像を有しない転写紙を前記と同様の条件で定着ローラーに圧接触させ、転写紙上にトナーのオフセットにより発生するよごれを観察した。

その結果、比較試料のトナーを用いた場合には転写紙上にトナーのオフセットによる著しいよごれが認められたが、試料のトナーを用いた場合には転写紙上によごれが全く発生せず、トナーのオフセット現象の生じないことが認められた。この結果はさらにこの定着操作を繰返し行なつた場合にも全く同様であつた。

実施例 2

ビコラスチックE-125（エツソ石油化学社製、スチレン系樹脂）80部と、エスレックBL-S（積水化学社製、ポリビニルブチラル樹脂）20部と、ピアレス155 10部とオイルブラックBW（オリエント化学社製）3部と、ビスコール660-P（三洋化成社製、低分子量ポリブロビレン）10部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ポリブロビレンを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し、比較試料とした。

これらの2種のトナーを用い、定着ローラーとして表面をテフロン（デュボン社製、ポリテトラフルオロエチレン）で形成したものをを用い、かつ融着温度を170乃至180℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 3

約80部のスチレンおよび約20部のジメチルアミノエチルメタアクリレートとの共重合体100

部と、ダイヤブラックSH（三菱化成社製）5部と、ビスコール660-P 7部とを混合して、実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別にポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これら2種のトナーを用い定着ローラーとして表面をKE-1300RTVのシリコンゴムで形成したものをを用い、かつ融着温度を180乃至190℃とした他は実施例1と同様な操作を施しそれぞれのトナーのオフセット性を調べた。

その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 4

約70部のスチレンおよび約30部の3-クロロ-2-ヒドロキシプロピルメタアクリレートの共重合体100部と、ダイヤブラックSH 8部と、オイルブラックBW 5部とビスコール550-P 10部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。

別にポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様な操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

これら2種のトナーを用い定着ローラーとして表面をテフロンで形成したものをを用い、かつ融着温度を180乃至190℃とした他は実施例1と同様な操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。

その結果、比較試料のトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合には、オフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 5

約85部のスチレンと約15部のメタアクリル酸ステアリの共重合体100部と、ビアレス155 5部とニグロシンベースEX 5部と、ビスコール660-P 10部とを混合して、実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。

別にポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様な操作によつてトナーを作成し比較試料とし

た。

これらの2種のトナーを用い、定着ローラーとしてテフロンで表面を形成したものをを用い、かつ融着温度を190乃至200℃とした他は実施例1と同様な操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果比較試料を用いた場合には、著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合には、オフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 6

ビコラスチックD-150 100部と、ダイヤブラックSH 5部と、オイルブラックBS（オリエント化学社製）5部と、ビスコール550-P 5部と、ステアリン酸亜鉛3部とを混合して、実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別にステアリン酸亜鉛を加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Aとした。さらにステアリン酸亜鉛とポリプロピレンを加えない他は、前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Bとした。

これらの3種のトナーを用いて実施例1と同様の操作を施し、それぞれトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料Bのトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、比較試料Aおよび試料のトナーを用いた場合にはいずれもトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。さらに繰返し使用の結果、比較試料Aのトナーに比べて試料のトナーが長期間摩擦帯電性が変化せず長寿命を有することが認められた。

実施例 7

約65部のスチレンおよび約35部のメタアクリル酸ブチルの共重合体100部と、ダイヤブラックSH 8部と、オイルブラックBW 3部と、ビスコール550-P 5部と、ステアリン酸鉛2部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ステアリン酸鉛を加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Aとした。さらにステアリン酸鉛とポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Bとした。

これらの3種のトナーを用い、定着ローラーとして表面をテフロンで形成したものをを用いた他は

11

実施例1と同様の操作を施し、それぞれトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料Bのトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、比較試料Aおよび試料のトナーを用いた場合にはいずれもトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。さらに繰返し使用の結果、比較試料Aのトナーに比べて試料のトナーが長期間摩擦帯電性が変化せず長寿命を有することが認められた。

実施例 8

約50部のスチレンと約30部のメタアクリル酸ブチルと約20部のメタグリル酸メチルの共重合体100部と、ビアレス155部とニグロシンベースEX5部と、ビスコール660-P8部と、ステアリン酸バリウム3部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別にステアリン酸バリウムを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Aとした。さらにステアリン酸バリウムとポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Bとした。

これらの3種のトナーを用い、融着温度を180乃至190℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料Bのトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、比較試料Aおよび試料のトナーを用いた場合にはいずれもトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

さらに繰返し使用の結果、比較試料Aのトナーに比べて試料のトナーが長期間摩擦帯電性が変化せず長寿命を有することが認められた。

実施例 9

約80部のスチレンおよび約20部のメタアクリル酸エチルの共重合体80部と、ビニライトVYLF（ベイクライト社製、約87部の塩化ビニルと約13部の酢酸ビニルとの共重合体）20部と、ダイアブラツクスSH8部と、ニグロシンベースEX5部と、ビスコール660-P3部と、ヘキストワツクスPA190（ヘキスト社製、低分子量ポリエチレン）2部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別にポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料とした。

12

これらの2種のトナーを用い、融着温度を190乃至200℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 10

実施例1においてビスコール550-P10部を5部に変え、かつブラストフロー（日東化学社製、エチレンビスステアロイルアマイド）3部を加えた他は実施例1と同様な操作によつてトナーを作成し試料とした。別に、ブラストフローを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し、比較試料Aとした。さらにブラストフローとポリプロピレンを加えない他は、前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Bとした。

これらの3種のトナーを用い、定着ローラーとして表面をKE-12RTV（信越化学社製、シリコンゴム）で形成したものをを用い、かつ融着温度を180乃至190℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料Bのトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、比較試料Aおよび試料のトナーを用いた場合には、いずれもトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。なお、トナーを製造する際の粉碎時には比較試料Aのトナーに比べて試料のトナーが過粉碎の起こり難いことが認められた。

実施例 11

実施例1においてビスコール550-P10部を5部に変え、かつサゾールワツクスHI（サゾール・マーケティング社製、高融点合成パラフィン）3部を加えた他は、実施例1と同様な操作によつてトナーを作成し試料とした。

別にサゾールワツクスHIを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Aとした。さらにサゾールワツクスHIとポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様の操作によつてトナーを作成し比較試料Bとした。

これらの3種のトナーを用いて、実施例1と同

13

様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料Bのトナーを用いた場合には著しいトナーのオフセット現象が発生することが認められたが、比較試料Aおよび試料のトナーを用いた場合には、トナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。なおトナーを製造する際の粉碎時には、比較試料Aのトナーに比べて試料のトナーが過粉碎の起こり難いことが認められた。

実施例 12

約80部のスチレンおよび約20部のメタクリル酸エチルの共重合体80部と、ビニライトVYLF20部と、ダイアブラツクSH8部と、ニグロシンベースEX5部と、ビスコール660-P3部と、ヘキストワツクスPA1902部と、ヘキストワツクスS(ヘキスト社製、高級脂肪酸)3部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。別に、ポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様の操作によってトナーを作成し比較試料とした。

これらの2種のトナーを用い、融着温度を155乃至165℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれのトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には、トナーのオフセット現象が若干発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。

実施例 13

約80部のスチレンおよび約20部のメタクリル

14

酸エチルの共重合体80部と、ビニライトVYLF20部と、ダイアブラツクSH8部と、ニグロシンベースEX5部と、ビスコール660-P3部と、ヘキストワツクスPA1902部と、ヘキストワツクスS3部と、パルミチン酸カルシウム1部とを混合して実施例1と同様に処理してトナーを作成し試料とした。

別に、ポリプロピレンを加えない他は前記と全く同様の操作によってトナーを作成し比較試料とした。

これらの2種のトナーを用い、定着ローラーとして表面をKE-12RTVで形成したものをを用い、かつ融着温度を160乃至170℃とした他は実施例1と同様の操作を施し、それぞれトナーのオフセット性を調べた。その結果、比較試料のトナーを用いた場合には、トナーのオフセット現象が若干発生することが認められたが、試料のトナーを用いた場合にはトナーのオフセット現象が全く発生しないことが認められた。さらに試料のトナーを繰返し使用した結果、長期間摩擦帯電性が変化せず長寿命を有することが認められた。

引用文献

特 公 昭37-8794

特 公 昭40-25267

特 公 昭42-9011

電子写真技術 井上英一 昭34.8.5 第26頁 共立出版発行

THIS PAGE BLANK (USPTO)